

# 群馬県内の地域史料の保存と活用

—明治以降の史料調査活動の歩み—

---

## はじめに —本報告の目的—

---

### I 明治前期の修史事業と県史資料調査

---

- (1) 豊国生「群馬県庁調査の県史資料に就て」：『上毛及上毛人』第6号（大正6年1月刊）
- (2) 群馬県庁文書「群馬県地理歴史関係資料（一）～（五）」  
：『上毛及上毛人』第76～78、85・86号（大正12～13年刊）
- (3) 太政官修史館の全国古文書探訪と群馬県

### II 大正期の『群馬縣史』編纂と史蹟史料調査

---

- (1) 大正期の『群馬縣史』の概要と構成
- (2) 「史蹟史料調査復命書綴」にみる調査状況

### III 昭和初期の大礼記念展覧会と郷土資料調査

---

- (1) 群馬会館の落成と記念展覧会の開催
- (2) 社寺兵事課による郷土資料の所在調査

### IV 昭和戦後の史料所在調査と自治体史誌の編纂

---

- (1) 全国の近世庶民史料調査と群馬県
- (2) 文化財保護課の県下全域の文化財総合調査
- (3) 『群馬県史』の編纂と古文書等の調査・収集

---

## 結びと今後の課題 —地域史料の散逸に備えて—

---

- (1) 明治以降の史誌編纂と史料目録
- (2) 地域史料（＝歴史文化遺産）を保存活用していくには？

# 群馬県内の地域史料の保存と活用

—明治以降の史料調査活動の歩み—

岡田 昭二

## はじめに —本報告の目的—

- 明治、大正、昭和戦前・戦後の各時代に行われた本県の地域史料（主に古文書・記録等の文献資料）の所在調査の歩みを時系列で振り返るなかで、調査の目的や成果を再検証し、それを基にして、これからの地域史料の保存と活用のあり方を考えるきっかけとしたい。

## I 明治前期の修史事業と県史資料調査

- 太政官正院の歴史課が明治7年（1874）11月、全国各府県に対して「歴史編輯例則」を示し、統一的書式の「府県史」編輯を指示。続いて明治8年（1875）6月には地誌課が「皇国地誌編輯例則」を発し、各府県に村誌・郡誌の具体的な記述事項と着手方法を提示。本県では「群馬県歴史」と「上野国郡村誌」の編纂事業に着手。

- (1) 豊国生「群馬県庁調査の県史資料に就て」：『上毛及上毛人』第6号（大正6年1月刊）
- ・群馬県令楫取素彦が明治7年（1874）、庶務課内に編輯掛を設置、歴史資料の調査を実施、担当は山崎衡（ひとし）・吉田嘉蔬（かよ）ら。
  - ・この時調査（明治8・9～18・19年頃）した文書は一括県庁に秘蔵、資料は古墳墓・古社寺関係が多い。各町村・地方学者・有識者が調査したものもあるが、断片的で纏まったものは無い。これらは古墳墓、古社寺、新田氏関係史料に分類され、うち古墳古墓の形状、発掘物の形状など図示したものも多く、重要な県史資料。
  - ・この秘蔵文書を前橋図書館長の樋口千代松が県庁から借用、さらに上毛郷土史研究会が借覧、その中から謄写し本誌に「県庁文書」として掲載（大正6～昭和3年）。  
⇒第6～12、16、17、20～23、34～36、38、51、76～78、85、86、91、136号
- (2) 群馬県庁文書「群馬県地理歴史関係資料（一）～（五）」：『上毛及上毛人』第76～78、85・86号（大正12～13年刊）
- ・本資料は明治14～15年頃、群馬県庁の編輯掛山崎衡が担当、地理歴史等に関する材料（古文書・記録、書画・物品類）111件278点の資料目録。  
西群馬(46)、吾妻(19)、碓氷(16)、南勢多(9)、利根(5)、ほか7郡(15)  
⇒文書館蔵：県議会図書室郷土資料「地誌編輯参考古書類目録」(No. 890196)
  - ・第86号(T13.6)付言：豊国覚堂曰く、(中略)他に各郡を精査すれば、多々益々資料が存することは言うまでもない。本編はおそらくその十分の二、三に過ぎない。現在の世で志あるものは、地方を搜訪して遺漏を補充せられんことを願う。
- (3) 太政官修史館の全国古文書探訪と群馬県
- ・太政官修史館は明治14年（1881）12月に業務を再編、翌15年から正史『大日本編年史』の編纂に着手（古文書等の一次史料に基づく歴史叙述）。これに伴い、明治18年から21年にかけて関東・近畿・四国・九州などに館員を派遣、現地で古文書を探索して写本を作成。
  - ・この探訪は日本史学界にとって一大画期となり、現在知られる歴代天皇の宸筆や著名な公卿・僧侶・文人らの書状等の多くは、この時に発見・収集されたとされ（古文書約6万7000通、書籍約7800冊）、日本の近代史学及び現地史料調査の始まりとして位置づけられる。

- ・国立公文書館蔵：関東六県古文書探訪に関する諸記録（①復命書、②古文書探訪日記（乾・坤2冊）、③探訪文書目録5冊）

○目的＝府県史料の事務引継と修史材料（古文書・記録・系図等）の収集

○期間＝明治18年（1885）7月18日～10月6日（81日間）

○調査者＝編輯副長官重野安釋、六等掌記日下寛・田中義成、七等掌記小倉秀貫

○行程＝東京→茨城県（7/18～）→栃木県（8/1～）→群馬県（8/20～）→埼玉県（8/29～）→神奈川県（9/8～）→千葉県（9/18～）→10/6東京

#### ○収集資料

県(引継日)	文書	書籍	系図
・茨城(7/24)	4340通	487部(1220冊)	17種(20巻)
・栃木(8/6)	1055通	105部(133冊)	9種(10巻)
・群馬(8/24)	501通	66部(102冊)	12種(12巻)
・埼玉(9/1)	157通	23部(27冊)	5種(5巻)
・神奈川(9/8)	475通	29部(36冊)	5種(5巻)
・千葉(9/19)	1561通	57部(59冊)	10種(10巻)
合計	8089通	767部(1577冊)	58種(62巻)

- ・重野らは時に各班に分かれて現地調査を行い、編纂上必要な史料はその場で書写、又は書写を委託、あるいは借用して一括修史館へ郵送（全13回）。謄写後、原本は所蔵者へ返却。
- ・群馬県内の調査については、重野らは8月20日栃木県足利町から太田町に入り、9月1日までの13日間、主に県の南部地域（新田・山田・邑楽・佐位・那波・東群馬・西群馬・碓氷・多胡・北甘楽・緑野郡）を実地調査し、8月24日には群馬県令佐藤與三・元編輯掛山崎衡らの案内で県庁を訪れ、庶務課長山内信實・元編輯係小澤如風らの立合いで県史事務の引継。→【P6：文書目録】参照
- ・太政官修史館（修史局）の古文書探訪は、明治政府主導とはいえ、群馬県を含む全国都府県の史料調査のさきがけとなる。ただ、この時の収集史料は、主に中世から戦国・江戸初期までの古文書・記録・系図類が中心で、江戸時代以降の近世・近代文書への関心はほとんど無い。  
⇒『東京大学史料編纂所史史料集』（同編纂所編、平成13年11月刊）

## II 大正期の『群馬縣史』編纂と史蹟史料調査

### (1) 大正期の『群馬縣史』の概要と構成

- ・本縣史の編纂は、大正4年（1915）11月三宅源之助知事の時に発起し、続く中川友次郎知事の大正7年7月から5か年事業として着手。
  - 目的＝本県の教育文化や地方行政の振興さらに国家の発展に寄与し、併せて県民の愛郷心を涵養し自治民育に貢献する。
  - 組織＝内務部学務課内に編纂主任1名（飛澤勇造→大正9年～戸田桑治郎）を配置、関係史料の収集を開始。また大正10年に編纂・執筆委員として歴史学者の堀田璋左右（早大教授・愛知県嘱託）を委嘱。さらに大正11年には庁内調査委員を任命して行政文書の収集。
  - 構成＝当初計画では、政治編（古代～大正期、執筆は堀田）と教化編（史蹟名勝・社寺等、執筆は戸田）の二編構成の予定であったが、大正12年9月の関東大震災で草稿・関係史料等を全て焼失。
  - 刊行＝大正13年（1924）4月、群馬県教育会に委託再開し、昭和2年（1927）に『群馬縣史』全4巻（第1巻＝古代～戦国期、第2・3巻＝江戸期、執筆は堀田、第4巻＝明治・大正期、執筆は八木昌平）を刊行。

### (2) 「史蹟史料調査復命書綴」にみる調査状況

- ・編纂主任の飛澤勇造（東京出身、大正7年6月～同9年3月、教育事務嘱託）は、

大正7年(1918)10月から同9年3月までの約1年半、全20回(計124日間)にわたって県内外の史蹟史料の所在調査や聞き取り等による情報収集活動を行い、県知事の中川友次郎(大正9年7月～大芝惣吉)あてに復命書を提出(文書館蔵:大正7年「史蹟史料調査復命書綴 内務部学務課」大1144)。

- ・本調査の対象は、旧石器・古墳時代の遺物・遺跡から神社仏閣、古城址、石碑、江戸時代の古文書・記録類、史蹟名勝天然記念物まで広範囲。
- ・東京市の調査(全5回)は、東京帝大史料編纂掛・維新史料編纂事務局・東京帝室博物館・逓信博物館等のほか、上野旧藩の大家(松平・大河内・酒井・土岐など)を調査。一方、県内市町村の調査はほぼ県下全域に及び、調査方法は各郡役所や市町村役場の首長、小中学校の校長等の協力を得て、各史蹟の視察や史料目録の作成、謄写依頼、史料借用などを行う。

○飛澤勇造の史蹟史料調査一覧

	調査期間(日数)	調査地	復命日
1	大正7.10.11～17 (7日)	東京市	10.22
2	同 7.11.9 (1日)	伊勢崎町	11.15
3	同 7.11.27 (1日)	高崎市、碓氷郡豊岡村	11.28
4	同 7.12.23～26 (4日)	碓氷郡(安中・板鼻・磯部・松井田・横川・坂本)	1.6
5	大正8.2.4～11 (8日)	東京市	2.12
6	同 8.2.16 (1日)	群馬郡豊秋村	2.21
7	同 8.4.14～20 (7日)	新田郡	4.24
8	同 8.5.12～18 (7日)	邑楽郡 (以上、中川知事)	5.21
9	同 8.6.27～7.16 (20日)	東京市 (以下、大芝知事)	7.24
10	同 8.8.4～11 (8日)	利根郡	8.27
11	同 8.9.2～12 (11日)	吾妻郡	9.22
12	同 8.9.29～10.1 (3日)	群馬郡	10.9
13	同 8.10.11～16 (6日)	群馬郡	10.21
14	同 8.10.23～24 (2日)	勢多郡荒砥村、群馬郡片岡村	10.27
15	同 8.11.10～15 (6日)	山田郡、勢多郡	11.25
16	同 8.11.28～29 (2日)	佐波郡伊勢崎町・芝根村	12.4
17	同 8.2.6～20 (15日)	東京市	12.24
18	大正9.1.27～2.1 (6日)	佐波郡	2.18
19	同 9.2.26～28 (3日)	東京市	3.3
20	同 9.3.22～27 (6日)	邑楽郡、新田郡、前橋市、群馬郡、多野郡	4.3

- ・本縣史事業については、上毛郷土史研究会(豊国覚堂)が『上毛及上毛人』誌上で編纂経過や調査状況などを逐次紹介(大正8～15年)。  
⇒第31・55・57・59・61・64・69・73・74・78・80・114号

### III 昭和初期の大礼記念展覧会と郷土資料調査

○大正8年(1919)4月公布の「史蹟名勝天然記念物保存法」をうけて、群馬県では同10年9月に同調査委員設置規程を定めて、調査委員23名(県職員4名・郡市広域担当19名)を委嘱。さらに、昭和4年(1929)6月には同調査会規程(顧問:柴田常恵)を定め、委員の豊国義孝・相川之賀・八木昌平・岩澤正作らがいわゆる文化財の所在調査や保存活動を開始。

(1) 群馬会館の落成と記念展覧会の開催

- ・群馬会館は、昭和3年(1928)秋に行われた天皇即位大礼を記念し、本県の「産業の殿堂」として同5年11月完成(平成8年登録有形文化財)。この落成記念式に併せて郷土資料展覧会を開催。

- 主 催＝県学務部(展示構成は史蹟調査委員に委任)
- 期 間＝昭和5年11月29日(落成式)～12月5日
- 会 場＝1階:工芸品の展示、2・3階:郷土資料展(年代順に配列)
- 出品物＝第1部:県内の地質・地層、鉱石・化石(中曾根・岩澤委員)  
第2部:石器時代の遺跡遺物、古墳出土品、古瓦・仏・経筒(岩澤・相川)  
第3部:古文書・古記録・古絵図、古碑、制札、手形(八木・豊国・佐藤)
- 目 録＝『群馬県郷土資料展覧会目録』(県教育会・神職会、昭和5年11月刊)

## (2) 社寺兵事課による郷土資料の所在調査

- ・群馬会館の落成記念展覧会の開催を機に、本県では昭和5年(1930)9月、学務部社寺兵事課(担当は大冨軍之丞)を中心に、市町村長・小中学校長・図書館長等に依頼し、県下一斉に郷土資料の所在調査を実施(→9月3日付、郷土資料調査ニ関スル件照会)。
- ・郷土資料は『郡誌』編纂の際に一部所在が確認されたが未知のものも多い。展覧会は一過性のものであるが、これを機に継続的な調査ができれば、恒久的に記録を残すことができる。よって、展覧会の開催と同時に県の郷土資料台帳を作成することが目的(『上毛及上毛人』第161号、昭和5年9月)。
- ・対象資料は、地質岩石・化石、貝塚出土品、石器時代遺物、古墳出土品、古代瓦、板碑、懸仏・鰐口・雲版・経筒・経塚出土品、古文書・古記録・古絵地図、藩札・制札・棟札、手形、著名人遺物・功績関係資料、書画・什器・美術工芸品、著名図書、著名人物像ほか。なお、報告書は9月25日までに提出方を依頼(→「郷土資料調査要項」)。  
⇒文書館蔵・旧議会郷土資料:昭和5年「郷土資料展覧会搬入品目録」、昭和5年「社寺郷土資料調査書類」学務部社寺兵事課  
⇒『上毛及上毛人』51・55・57・59・80・147・148・162・164～169・176号(大正10～昭和6)

## IV 昭和戦後の史料所在調査と自治体史誌の編纂

- 国の土地制度史料調査委員会(農林省)と農漁村史料調査委員会(日本学術振興会)が、昭和21年(1946)から全国の史料調査・収集活動を始め、同24年10月には漁業制度史料収集委員会が水産庁資料整備委員会と連携し、水産関係史料の調査・収集を開始。

### (1) 全国の近世庶民史料調査

- ・日本学術研究会議内の近世庶民史料調査委員会が昭和23年(1948)～28年、史料の散逸防止を目的に全国規模の近世史料調査を実施。全国を8ブロックに分け、史料の所在確認と目録作成を行う。対象は主に天正初年から明治末年までの文書・記録・図書等の文献資料が中心。
- ・群馬県は関東ブロックに属し、群馬大学山田武磨研究室が調査を行い、県内64件の所蔵者と約1万点に及ぶ古文書の所在を確認。  
⇒『近世庶民史料所在目録』第1～3輯(日本学術振興会、昭和27～30年刊)
- ・昭和28年以降は、文部省史料館(のち国立史料館、現国文学研究資料館)が事業を引き継ぎ、昭和40年代半ばまで継続。その成果は、史料館編『近世史料所在調査概要』(昭和45年刊)として刊行。本県では山田氏が地方調査員として所在調査を継続、昭和41年までに新たに所蔵者19件、1万8000点余の古文書を確認。
- ・本調査は、全国規模の近世史料調査としては画期的であったが、調査期間・調査員などの制約もあって地域的な偏りがある。

### (2) 県文化財保護課の県下全域の文化財総合調査

- ・散逸の危機に瀕している文化財の保護を積極的に推進するため、群馬県文化財保護課が昭和47年度(1972)から5か年計画で、県下の市町村教育委員会や各地区調査員の協力を得て実施した地域別(利根沼田・東毛・中毛・西毛・吾妻)の文化財の緊急調査。対象資料は、絵画・彫刻・建造物・石造美術品・有形民俗資料・民俗芸能・古文書・記念物など広範囲に及ぶ。
- ・この中で古文書は、学校の教員を中心に延59名が動員され、地域別・市町村ごとに所在

調査を実施。対象は明治20年以前の古文書・記録・絵図・写真・版本・卷子本など、調査方法は概要調査と現地調査の二段階とし、所蔵者と保存状況の確認、さらに目録作成・筆写・写真撮影など(→「古文書調査要綱」)。

- ・本調査は地域や市町村によって精粗があるが、県下70市町村のうち52市町村、約800件、10万2000点余の古文書の所蔵者・点数が確認される。 →【P7：第1表】参照  
⇒県教育委員会編『群馬県文化財総合調査報告書』第1～5集(昭和49～53年刊)

### (3) 『群馬県史』の編纂と古文書等の調査・収集

- ・群馬県総務部の学事文書課内で昭和49年度(1974)から10か年計画でスタートした県史編纂事業(昭和52年～県教委の所管)は、最終的に平成5年3月まで延長。成果として原始古代・中世・近世・近現代・民俗の資料編27巻・通史編10巻を刊行。
- ・この一大修史事業の一環として、中世・近世・近現代の各部会では県内外に所在する古文書・記録等の関係史料の悉皆的な調査を実施し、その目録作成や写真撮影による収集活動を行う。
- ・このうち近世史部会は、昭和50年から63年にかけて地域別(西毛・北毛・中毛・東毛)に古文書の現地調査と写真撮影による収集活動を行い、地域史料の所在確認と適切な保存・管理及びその有効活用を図るため、『群馬県近世史資料所在目録』全36集(昭和52～平成3年刊)を作成。これにより70市町村のうち59市町村、1728件、約37万点余の近世史料の所在とその概要が明らかとなる。 →【P8：第2表】参照
- ・この編纂事業で収集された各部会の資料は、平成5年3月末に県立文書館へ移管。文書館では平成5年度から4か年計画で収集資料の整理作業を開始。この結果、中世・近世・近現代の各部会が撮影した古文書等の複製資料2092件、7万753点(焼付け簿冊7416冊)は現在、文書館にて閲覧公開中。  
⇒文書館編『群馬県史収集複製資料目録』全4冊・総索引(平成6～9年刊)

## 結びと今後の課題 — 地域史料の散逸に備えて —

### (1) 明治以降の史誌編纂と史料目録

- 明治前期～中期＝皇国地誌と「上野国郡村誌」
  - ・群馬県庁文書「群馬県地理歴史関係資料(一)～(五)」:『上毛及上毛人』第76～78、85・86号(大正12～13年刊) ⇒文書館蔵:「地誌編輯参考古書類目録」
  - ・国立公文書館蔵:「関東六県採訪文書目録」三(群馬県)
- 明治末期～大正初期＝明治の町村合併後の町村「郷土誌」
  - ・文書館蔵:「大正7年 史蹟史料調査復命書綴 内務部学務課」
- 大正期～昭和初期＝即位大典又は郡制廃止記念「郡誌」
  - ・文書館蔵:『群馬県郷土資料展覧会目録』(県教育会・神職会、昭和5年刊)
  - ・文書館蔵:昭和5年「郷土資料展覧会搬入品目録」、同5年「社寺 郷土資料調査書類」内務部社寺兵事課
- 昭和30年代以降＝戦後の市町村合併後の新旧「市町村史誌」
  - ・『近世庶民史料所在目録』第1～3輯(日本学術振興会、昭和27～30年刊)
  - ・文部省史料館編『近世史料所在調査概要』(昭和45年刊)
  - ・県教育委員会編『群馬県文化財総合調査報告書』第1～5集(昭和49～53年刊)
  - ・県史編さん室編『群馬県近世史資料所在目録』全36集(昭和52～平成3年刊)

### (2) 地域史料(＝歴史文化遺産)を保存活用していくには?

- ①過去の史誌編纂と史料調査の成果を再検証する。
- ②既存の史料所在目録を蒐集する。
- ③史料目録をもとに現所蔵者の追跡調査と保存の現状(文書の有無)を確認する。
- ④近現代文書を含め、所蔵者別史料保存台帳を整備する(⇒目録データベース化)。

国立公文書館蔵「関東六県探訪文書目録」三（群馬県）

	所蔵者	所在地	点数	借入月日（その他）
1	彦部彦四郎	山田郡広沢村	28	8.20 借入
2	園田愛太郎	同 吉沢村	7	8.21 借入
3	岡田徳三郎	同 下久方村	2	同 借入
4	前原千穎	同 同	2	同 借入 下久方村天神祠官
5	浄雲寺	同 桐生新町	3	同 借入
6	大光院	新田郡太田町	3	同 借入
7	大華蔵寺	佐位郡伊勢崎	2	8.22 写
8	新居喜三	山田郡桐生町	13	8.21 借入
9	毛呂岩三	新田郡世良田	6	同 借入
10	武孫兵衛	佐位郡伊勢崎町	3	8.22 借入
11	長尾景盛	同 伊勢崎在下植木村	2	同 借入
12	天増寺	同 伊勢崎在	1	同 写
13	中澤廣勝	同 境駅	15	同 借入 (14点) / 9.22 郵送 (1点)
14	長楽寺	新田郡世良田	42	8.23 借入
15	堀口藍園	西群馬郡渋川駅	1	8.24 借入
16	群馬県庁		1	同 借入
17	山崎衡	東群馬郡前橋	1	同 借入 / 9.14 郵送
18	善導寺	邑楽郡館林	4	8.25 借入
19	茂林寺	同 堀江村	1	同 借入
20	長年純寺	西群馬郡上室田村	10	同 借入
21	長松本四郎三郎	同 富岡村	1	同 借入
22	田中*作	邑楽郡海老瀬村	1	8.26 借入
23	善長寺	同 板倉村	2	同 借入 雷電神職
24	茂木某	同 当郷村	2	同 借入
25	首藤鐵弥	碓氷郡松井田駅	5	同 借入
26	補陀洛寺	同 安中駅	1	同 借入
27		同 松井田駅堀口村	9	同 借入 (8点) / 9.4 郵送 (1点)
28	小林禎亭	同 安中駅	5	同 借入
29	陳松	同 松井田駅	11	同 借入
30	戸長役場	同 同	5	同 借入
31	山縣要太郎	西群馬郡上豊岡村	1	8.27 写
32	近藤為三郎	邑楽郡下小泉村	1	同 借入
33	龍泉院	同 上泉村	2	同 借入
34	宮下正太郎	新田郡武蔵島村	9	同 借入 (6点) / 9.22 中澤廣勝郵送借入 (3点)
35	新田俊能	同 下田島村	57	同 借入
36	高井精一	西群馬郡柴崎村	18	8.28 借入
37	堀口角弥	緑野郡倉賀野	3	同 借入
38	高井豊	那波郡玉村八幡	1	同 借入 玉村八幡神職
39	田口鐵五郎	同 上茂木村	2	同 借入
40	石倉九一郎	同 沼之上村	6	同 借入
41	清水直次郎	新田郡世良田村	1	同 借入
42	赤石仲政	西群馬郡元惣社村	2	8.29 借入
43	松田重衛	同 同	4	同 借入
44	福島謙三郎	同 高井村	3	同 借入
45	長尾三千雄	同 大友村	2	同 借入
46	梶山三右衛門	同 高崎本町	2	同 借入
47	小野澤和助	同 元惣社村	1	同 借入
48	山田静謐	同 上小場村	5	同 借入 稻荷社祠掌
49	赤石力臣	同 元惣社村	1	同 借入
50	内山口成太郎	同 西国分村	13	同 借入
51	堀口久太郎	同 下佐野村	1	8.30 借入
52	市川真英	北甘楽郡羽沢村	66	8.31 借入
53	三木長太郎	多胡郡黒熊村	1	同 借入
54	興巖寺	北甘楽郡国峰村	3	同 借入
55	延養寺	西群馬郡高崎町	4	9.3 郵送
56	佐藤賢三	碓氷郡坂本駅	3	9.11 郵送
57	群馬県庁		53	9.14 郵送借入
58	細野右左二	佐位郡伊勢崎町	1	9.22 中澤廣勝郵送借入
	57件		455点	

第1表 群馬県内の市町村別古文書所在件数・点数の概要

郡市町村名	件数	点数	郡市町村名	件数	点数		
前橋市	192(10)	17,731(66)	碓氷郡 松井田町	17(45)	11,494(7,255)		
高崎市	68(6)	15,876(807)	吾妻郡	中之条町	61(-)	8,124(-)	
桐生市	48(6)	14,322(16,163)		東村	13(15)	1,817(267)	
伊勢崎市	91(9)	26,114(24)		吾妻町	44(47)	8,693(多数?)	
太田市	96(6)	16,189(13,602)		長野原町	22(24)	1,210(1,128)	
沼田市	115(12)	8,075(723)		嬭恋村	24(29)	5,170(4,987)	
館林市	38(19)	1,209(1,624)		草津町	6(4)	1,081(699)	
渋川市	45(-)	6,463(-)		六合村	7(3)	1,763(285)	
藤岡市	43(14)	8,384(564)	高山村	8(7)	2,359(83)		
富岡市	17(-)	2,265(-)	小計	185(129)	30,217(7,449)		
安中市	25(40)	9,819(2,121)	利根郡	白沢村	35(24)	2,077(621)	
勢多郡	北橋村	23(26)		3,080(1,274)	利根村	41(24)	6,240(1,849)
	赤城村	41(23)		5,222(768)	片品村	25(10)	4,824(1,911)
	富士見村	25(12)		2,710(132)	川場村	31(5)	2,448(1,267)
	大胡町	9(3)		1,873(386)	月夜野町	78(15)	7,900(1,280)
	宮城村	21(17)		3,409(319)	水上町	27(9)	2,276(1,437)
	粕川村	20(5)		1,894(26)	新治村	48(20)	5,324(3,996)
	新里村	21(-)	13,318(-)	昭和村	17(13)	2,672(1,618)	
黒保根村	11(9)	6,998(793)	小計	302(120)	33,761(13,979)		
東村	15(-)	3,495(-)	佐波郡	赤堀町	15(11)	2,992(2,481)	
小計	186(95)	41,999(3,698)		東境村	26(-)	1,577(-)	
群馬郡	榛名町	25(-)		3,121(-)	東境町	55(34)	15,277(6,323)
	倉渕村	16(-)	1,169(-)	玉村町	24(15)	11,199(859)	
	箕郷町	19(-)	3,074(-)	小計	120(60)	31,045(9,663)	
	群馬町	21(-)	3,339(-)	新田郡	尾島町	24(-)	4,728(-)
小計	81(-)	10,703(-)	新田町		25(7)	6,487(391)	
北群馬郡	子持村	32(25)	5,258(1,187)		藪塚本町	15(7)	2,987(182)
	小野上村	20(11)	2,119(3,568)		笠懸町	23(-)	2,051(-)
	伊香保町	6(5)	219(406)	小計	87(14)	16,253(573)	
	榛東村	31(21)	1,651(443)	山	大間々町	25(9)	7,526(3,186)
	吉岡町	21(34)	6,608(3,674)		邑楽郡	板倉町	11(2)
小計	110(96)	15,855(9,278)	明和村			11(2)	1,472(327)
多野郡	新町	7(6)	846(26)			千代田町	8(9)
	鬼石町	5(-)	10,841(-)	大泉町		20(3)	1,709(152)
	吉井町	32(-)	1,944(-)	邑楽町		15(4)	1,796(364)
	万場町	21(19)	3,217(3,173)	小計	65(20)	7,654(3,086)	
	中里村	5(9)	314(1,476)	県外	102	2,972	
上野村	26(23)	3,626(3,672)	総計	2,198(779)	371,593(102,286)		
小計	96(57)	20,788(8,347)	甘楽郡	妙義町	4(3)	3,996(58)	
甘楽郡	下仁田町	13(-)		6,030(-)	南牧村	7(9)	2,428(20)
	南牧村	7(9)		2,428(20)	甘楽町	20(-)	2,425(-)
	甘楽町	20(-)		2,425(-)	小計	44(12)	14,879(78)
	小計	44(12)	14,879(78)				

注)1. 『群馬県近世史資料所在目録』及び『群馬県文化財総合調査報告書』、市町村史誌の文書目録等より作成。  
 2. 括弧内の数字は、県文化財総合調査の数量。



第2表 群馬県近世史資料所在目録（全36集）の概要

号数	(件数)	収録市町村名	発行年
第1集	(46)	=上野村(23)、中里村(4)、万場町(19)	昭52. 2
第2集	(5)	=鬼石町(5)	昭52. 7
第3集	(19)	=南牧村(7)、下仁田町(8)、妙義町(4)	昭52.10
第4集	(42)	=藤岡市(35)、多野郡新町(7)	昭53. 1
第5集	(56)	=富岡市(16)、甘楽町(19)、吉井町(21)	昭53. 2
第6集	(51)	=高崎市(51)	昭54. 2
第7集	(22)	=安中市(22)	昭54. 5
第8集	(17)	=松井田町(17)	昭54. 7
第9集	(38)	=榛名町(22)、倉渕村(16)	昭54. 4
第10集	(39)	=箕郷町(19)、群馬町(20)	昭54.12
第11集	(28)	=嬭恋村(23)、草津町(5)	昭55. 3
第12集	(46)	=長野原町(20)、六合村(6)、吾妻町岩島(20)	昭55. 4
第13集	(23)	=吾妻町太田・原町・坂上地区(23)	昭55. 6
第14集	(61)	=中之条町(61)	昭55.11
第15集	(20)	=吾妻郡東村(13)、高山村(7)	昭56. 2
第16集	(52)	=片品村(25)、水上町(27)	昭56. 7
第17集	(41)	=利根村(41)	昭56.10
第18集	(83)	=白沢村(35)、川場村(31)、昭和村(17)	昭57. 1
第19集	(47)	=新治村(47)	昭57. 5
第20集	(76)	=月夜野町(76)	昭57. 7
第21集	(115)	=沼田市(115)	昭57.11
第22集	(52)	=子持村(32)、小野上村(20)	昭58. 3
第23集	(50)	=渋川市(44)、伊香保町(6)	昭58. 7
第24集	(52)	=榛東村(31)、吉岡村(21)	昭58.12
第25集	(41)	=赤城村(41)	昭59. 2
第26集	(55)	=北橋村(23)、富士見村(24)、大胡町(8)	昭59. 6
第27集	(62)	=宮城村(21)、粕川村(20)、新里村(21)	昭60. 1
第28集	(41)	=佐波郡赤堀村(15)、東村(26)	昭60. 9
第29集	(53)	=境町(53)	昭62. 2
第30集	(24)	=玉村町(24)	昭62. 6
第31集	(112)	=前橋市：その1(112)	平 1. 3
第32集	(59)	=前橋市：その2(59)	平 1. 3
第33集	(36)	=桐生市(36)	平 2. 3
第34集	(24)	=大間々町(24)	平 2. 3
第35集	(45)	=勢多郡東村(13)、館林市(32)	平 3. 3
第36集	(95)	=太田市(95)	平 3. 3

\*59市町村、1728件

\*括弧内の数字は所在件数を示す。

【未収録市町村】伊勢崎市／勢多郡(黒保根村)／新田郡(尾島町・新田町・藪塚本町・笠懸町)／邑楽郡(板倉町・明和町・千代田町・大泉町・邑楽町)